



大変な時にこそ協力したい

白羽地区で洋裁教室を開く「アトリエわくわく(原崎律子代表)」が4月22日、新型コロナウイルスの感染拡大でマスクの入手が困難になっていることを受け、教室メンバー40人が手作りした布マスク230枚を市に寄付しました。

マスクは、その日のうちに高齢者福祉施設や障がい者福祉施設に配布されました。

◀大変な時だからこそ協力をしたいと話す原崎代表とメンバー



地域から信頼される給食を

御前崎市新学校給食センター建設工事の安全祈願祭と起工式が4月27日、現地で開かれ市関係者や建築業者ら20人が参列しました。同センターは、来年3月に建設が完了し、9月から供用を開始する予定です。

柳澤市長は「児童、生徒、保護者、市民などから信頼され、誇りに思われるような学校給食センターになってほしい」と期待しました。

◀関係者が見守る中、鍬入の儀を行う柳澤市長



市民の感染予防に役立てて

株式会社エポックの松本仁孝代表取締役が5月7日、市役所を訪れてマスク4100枚を寄付しました。マスクは、市立御前崎総合病院の医療従事者や幼稚園、保育園、こども園の園児が使用します。

松本さんは「このマスクを市民の感染予防のために役立たせてほしい。また、市民サービスの停滞を招くことがないようにしてほしい」と要望しました。

◀柳澤市長と大橋病院長にマスクを手渡す松本代表取締役



病院内での感染を防止して

白羽地区にある川口興産株式会社の川口正洋代表取締役社長が5月11日、マスク2000枚を寄付するために市役所を訪れ、柳澤市長に手渡しました。

川口さんは「このマスクを新型コロナウイルス感染症に対して直接立ち向かっている医療従事者や外来、入院患者さんの感染防止に役立ててほしい」と依頼しました。

◀柳澤市長にマスクを手渡す川口代表取締役社長